

平成 28 年 2 月 26 日

学位論文審査、最終試験並びに学力の確認結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査： 平 藤 雅 彦



副 査： 島 村 佳 一



副 査： 遠 藤 泰



副 査： 平 野 剛



このたび 齋藤靖弘 にかかわる学位論文審査、最終試験並びに学力の確認を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

恐怖記憶の消去における神経機構と情動障害に関する研究

2. 論文要旨 (別添)

3. 学位論文審査の要旨

本学位論文は、恐怖記憶の消去障害に着目し、海馬と皮質前頭前野を中心とした消去記憶に関わる情動神経回路のシナプス機構を、覚醒下での電気生理学解析、行動薬理学的解析、細胞内分子機構の生化学薬理学的解析、脳内微小透析法を用いた神経伝達物質の神経科学的解析により多角的に検討したものである。また、情動神経回路の障害による情動障害モデルラットを用いての検討も行い、薬理学的視点と新たに発見された脳の可塑性に関する知見を利用した心的外傷後ストレス障害(PTSD)の治療戦略についても考察している。その実験結果は、文脈的恐怖条件付け試験に基づいた恐怖記憶の消去過程において、海馬内や皮質前頭前野などが領域、部位特異的なシナプス反応を示し、その過程に関与する ERK 活性化機構、ドパミン神経系及び受容体機能の障害が恐怖記憶の消去障害に関与することを示唆しており、今後脳の可塑性を利用した PTSD の新たな治療戦略としての可能性を示唆するものと高く評価される。また、本学位論文は信頼性の高い実験手法により得られた多くの実験結果に基づいて論理的な記述がなされており、多面的な議論、考察を加えることにより説得力のある結論を導いている。

4. 最終試験(学力の確認)の要旨

研究発表会における発表は論旨の通った内容であり、発表会及び口頭試問における質疑応答にも的確な対応をしていることから、学位授与に値する十分な学力を有すると認められる。

ある

以上の結果 齋藤靖弘 は博士(薬学)の学位を授与する資格の

ものと判定する。

ない

以上